香川大学留学生会（KUFSA）の活動について

香川大学留学生会会長　ファン・ティ・ハー・アン

はやいもので、今年も残すところあと1ヶ月となりました。日本では12月のことを、忙しい月を例える言葉として「師走」と言うそうですが、まさにその言葉通りの12月となりそうです。さて、今回は香川大学留学生会「KUFSA」の平成18年度の活動内容について報告したいと思います。

●4月と10月のウィルカム・パーティ

KUFSAでの最初の活動は、4月に行われるウィルカム・パーティです。これは、香川大学に新しく来た留学生を歓迎し、日本の学生の皆様と交流を深めることを目的として行われる行事です。今年も日本に来て、まだ間がないKUFSAメンバーを、ICESの皆様をはじめとした関係者の皆様が、盛大に迎え入れてくれました。皆様には、とても優しく接してもらい、とても心が温まる楽しいPartyになりました。また、10月にもウィルカム・パーティがあり、4月のパーティと同様に、盛大で素敵なパーティとなりました。

●5月の国際フェスタ

4月のウィルカム・パーティから約1ヵ月後、大学での生活が落ち着いたころに、国際フェスタがサンポート高松で5月27日、28日の2日間にわたり開催されました。今年は、国際会議の参加者も交えた盛大な国際交流イベントとして、例年以上に賑わいました。KUFSAとしての出店ブースは1つだけでしたが、タイ、バングラディシュ、ベトナム、それぞれの国の郷土料理を作りました。国際フェスタでは、沢山の人たちと楽しく会話することができ、とても思い出に残る国際フェスタになりました。

●7月の小豆島旅行

7月には、KUFSAのメンバー、高松の市民の方々、大学関係者の方々と共に、日帰りで小豆島に訪れました。海岸では、スイカ割り、ビーチバレー、ボートに乗ったりして楽しく遊び、あっという間に時間が過ぎてしまいました。この小豆島合宿で、参加者の皆様はお互いの絆をさらに深め合い、異文化交流の楽しさを感じてもらえたと思います。今後もこの有意義な合宿に、もっと多くの人達に参加してもらい、異文化交流の素晴らしさ、楽しさを少しでも多くの人に体験してもらえればと思っております。また、今回の小豆島旅行にあたり、高松ライオンズクラブ様には、多大なるサポートをしていただきました事を、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、3月、9月、11月には、名古屋、大阪、徳島への見学旅行を企画して頂きました。今まで知らなかった、日本の産業、歴史、文化、景観を知ることができ、非常に貴重な体験となりました。KUFSAメンバー全員を代表し、香川大学に心から感謝とお礼を申し上げます。

これまでのKUFSAでの活動は、皆様の協力のおかげでとても有意義な活動となり、皆様にとっても、素晴らしい異文化交流を経験する機会を提供できたのではないかと感じております。また、これら異文化交流での貴重な経験によって、全ての人たちが成長し、これからの人生の励みになると信じております。今年度のKUFSAの活動も、2007年3月のさよなら・パーティを残すのみとなりました。今までの、感謝の気持ちを最大限、表すと同時に、一番素敵で思い出に残るパーティになることを期待しています。

最後になりましたが、お世話して頂いた関係者の皆様、KUFSAのメンバー全員に、ここに感謝の意を表したいと思います。本当に、ありがとうございました。

ICES（アイセス）の活動について

法学部2年　松田　知華

「世界には私の知らないことがまだまだあるんだ!!」これはICESに入って様々な国の人々と交流を深めてきて一番最初に学んだことです。私の所属しているICESは「Inter-Cultural Exchange Society」の略で、その名の通り国際交流を楽しむことが大好きな学生で作られたサークルです。現在男女あわせて約50名のメンバーで構成されていて、週に1回留学生と一緒にみんなで楽しめるイベントについて話し合い、企画しています。

それではICESの1年を通しての主な活動について紹介しましょう。まず、4月と10月の年に2回新入留学生を歓迎する目的でWelcome Tea Partyを開いています。7月には瀬戸内海に浮かぶ島へ日帰り旅行に行きます。11月には香川大学祭で2日間に渡って手作りお菓子を販売し、12月には香川大学留学生交歓会に参加させていただいています。年が明けて1月のお正月会ではみんなでちらし寿司を作ります。これらのイベントの他にもたくさん企画していて、メンバーはもちろん留学生のみなさんもいつも笑顔が絶えずお互いに国際交流を楽しんでいます。

また、昨年から年に2回海外の大学生が香川大学へ日本語研修に来ています。彼らが日本に滞在している2週間で大学周辺を案内したり、夜ご飯を一緒に作って食べたりして交流を深めています。2週間という短い期間ですが彼らが日本を離れるときはお互いに連絡先を交換して離れてしまっても交流を続けています。そのためか学内での留学生だけでなく、海外にもたくさんの知り合いが増えました。

Hello～!!

私は入学してすぐICESに入り今まで1年半活動してきました。入ったばかりの頃は自分から留学生に話しかけることが出来なかったのですが、今では留学生と話すことが楽しくて仕方がありません。もちろん、留学生と日本人である私とでは育ってきた環境の違いや文化の違いがありますが、交流を深めていく中でそれらを知ることによって自分の考え方や世界が広がった気がします。自分の知らない世界を知ることは驚きや感動を生み出してくれ、それはまた次の交流への意欲へとつながっていくのです。

そして、これからもまた様々な交流を通してメンバーや留学生と一緒にたくさんの感動を味わいたいと思っています!!

あなたも一緒に国際交流で感動や驚きを味わってみませんか？興味があれば生協2階の部室まで足を運んでみてください。メンバー一同心からお待ちしています。

ICES 特製ちらし寿し☆

留学生からの一言

教育学研究科1年　　張　愛順

今年4月、香川大学教育学研究科に入学しました。振り返ってみれば、いろいろなことがあり、いろいろなことを経験し、いろいろな意味で成長したと思います。

幼い頃から、日中韓貿易の仕事をしているいとこの影響で日本に憧れ、高校を卒業した2ヵ月後、母の反対を押し切り、夢見ていた日本留学を実現させました。来日してみると、祖国で想像していた夢のような生活ではありませんでした。「今のままの自分」では、通用しないことに気づいたからです。

国や地域が違えば住んでいる人々が異なり、文化や習慣も違います。日本で暮らしている外国人にも、海外に出かけた日本人にも、異国の文化にはさまざまな驚きや戸惑い、喜びや悲しみがあると思います。私も例外ではありませんでした。日本に来た当初、ささいなことで「カルチャーショック」を受けました。常識のギャップ（生活習慣や文化の違い）は、どちらが良いとか悪いというものではありません。本来はどちらも正しいものではないでしょうか。「郷に入っては、郷に従え」。中国を離れる日、母から言われた言葉です。

日本に来て、もう7回目の秋を迎えます。4年間の大学生活と1年半の研究生生活を経て、この春、本学の大学院に入学しました。大学院は、学部時代や研究生時代とはまた違った新鮮な感じを味わえます。高度な知識を得るだけでなく、自らが主体となって学んでいくことが必要です。

大学院に進学し、出会い、喜びが増えました。現在、教育学研究室は、現職の院生（小学校教諭）が2名、留学経験のある日本人学生が1名、そして中国人留学生が3名の計6名から成っています。とても恵まれた環境でいろいろと教わりながら、大学院生活を送っています。

授業や研究の目的とはいえ、自ら計画し、挑戦することに充実感を感じます。大学院に入学して、すぐ柳澤良明先生の紹介で高松市立香西小学校の方へお世話になっています。初めて日本の子どもたちとふれあいを持つことが何より嬉しかったです。1学期は、2年生と共に授業を受けながら、休憩の時間には天真爛漫な子どもたちに囲まれ元気をもらい、お昼は共に給食をとり、学校が終われば共に下校をしました。とても元気で、明るい子どもたちは、すごく懐いてくれました。2学期からは、全学年を回っています。未来のタマゴたちと貴重な時を過ごせることが誇らしく思えました。

10月の第1日曜日、「未来からの留学生」の授業が香川大学教育学部で開催されました。同じ研究室の現職院生のアシスタントという小さな世話役ではありましたが、小学生（低学年）の子どもたちに教えながら、また教わりながら、日本の「独楽」にもふれることができました。思ったより難しかったです。でも、子どもたちは、真剣な顔で汗をかきながらも、休まず挑戦していました。その姿に感動しました。何か好きなことに夢中になることがとても素晴らしく思えました。帰りに子どもたちは「楽しかった」「ありがとう」と素敵な笑顔を見せてくれました。胸がいっぱいでした。

これからも研究と人とのコミュニケーションを大切に、いろいろなことに挑戦したいと思います。また、素敵な香川大学づくりのためにも力になれればと思います。

留学生の皆さん、「焦らず、頑張りすぎず」という慰めも時には必要だと思います。自分の目標に向かって、一歩ずつ確実に前進しながら、日本での生活を有意義に送りましょう。

留学生からの一言

法学部4年　　李　海

香川にいる4年間

穏やかな気候、大都市ほど早い生活スピードではない瀬戸内海の都市ー高松で、私の青春時代の4年間を過ごしました。

香川大学に入った途端、これからの長い4年間をいかに過ごすか悩みました。最初の1年は遊び倒しました。青春時代にはいろんな夢を持っています。時間の余裕もあるため、それを実践しました。そのひとつはベンチャー上げを研究、企画から実行までやりました。私の本業の勉強には力を入れていなかったため、成績が悪かったです。期末試験の成績表をもらった瞬間、法学は私が想像したよりもそんなに簡単なものではないことを実感しました。

それから2～3年の間、卒業単位を揃えるために猛勉強しました。大学4年の時、大学院の受験にも挑戦して、合格しました。香川大学での生活は残りあと半年しかありません。これからは好きな本を読んで過ごそうと思っています。最近、「中国人留学日本精神史」および「わが青春の日本」などの本を読みました。感慨が深く、魯迅、茅盾、郁達夫など先輩留学生の日本留学事情に感動しました。祖国が戦乱の時代、留学生の日本での生活は精神的な面、物質的な面において制限されていました。それにもかかわらず、かれらは勉強に励み、充実した留学生活を送っていきました。その感動の一こまは“食事後の散歩”でした。対照的に、わたしは来日して5年も経ちましたが、一度も散歩をしたことがありません。勉強以外の時間はパソコンをいじったり、友たちと店で飲んだりして、きわめて不健康な日々を過ごしてきました。現在の留学生は精神的な面、物質的な面は以前よりはるかに改善したにもかかわらず、学習の面はかえって悪くなりました。10年前は、二つのことから中国の留学生と日本人学生を区別することができました。ひとつは服装、もうひとつは成績表です。いまは、この二つのことでは区別できない状態になりました。

大学4年間には、勉強が重要なのは言うまでもありませんが、もっとも重要なのは、大学生活においての感悟ではないかと思います。回り道をしたり、失敗したりすることも必要です。目標が達成した人も達成できなかった人も不幸です。君は幸せであるかどうかは自分でチェックできます。それは、朝寝起きたとき、君が笑顔で一日を迎えられるかどうかによります。

最後、東坡先生の一句詞を留学生のみんなに捧げます。

「誰か怕れん　一蓑煙雨　平生に任ず」

留学生からの一言

法学研究科1年　　劉　妍

私の出身大学は中国･上海の華東政法学院という、法学を中心とする総合的な大学です。香川大学法学部との交流協定を利用して、2003年から1年間、交換留学生として香川大学で楽しく過ごしていました。そのおかげで、今の私がいると思っています。日本へ来て、びっくりしたこと、不思議でしょうがないことなど色々ありましたが、ここでは両国の大学生について書きたいと思います。

まずは見た目についてです。おしゃれ度が高いのは、何と言っても日本の大学生です。髪型から私服までキャンパスという場に合っているかどうかは別として、美的感覚が伝わってきます。しかし、ギャップが存在しています。すごくおしゃれな人と地味の人とのギャップ、そして、男なのに女のような身なりをしているという、うそと真実のギャップです。中国の大学生はどちらかというと普通のレベルだと思います。女子学生は化粧しない人が多く、冬にスカートをはく人はめったにいません。身なりを気にするよりも風邪を引かないことの方が重視されています。男は髪型どころか、服などは全然気にしない人がほとんどです。経済の発展と外国の影響で中国の大学生の考えが変わってきましたが、中国の化粧品市場と男性向けの整髪料などまだまだビジネスチャンスがあると考えられます。

「見た目」についてもう一つお話ししたいことがあります。それは、香川大学のキャンパスでは恋人同士の姿を見たことがないということです。これは本当にびっくりしました。最初の頃、この大学にはカップルがいないと思っていましたが、日本語の先生に聞くと、「それは、いないわけではなくて、あなた達が知らないだけですよ」と言われました。理解はできましたが、やはり不思議で、、理由も聞いてみました。一番の理由はキャンパスの中で手を繋いだり、腕を組んだりするのが恥ずかしいから、そして、もう一つの理由は、皆に知られて、もし別れたらお互いに後の大学生活にあまり良くないからだそうです。この理由に納得できないことはないのですが…。中国のどの大学でも、キャンパスの中で恋人同士が手を繋いだり、腕を組んだりするのは普通です。大げさかもしれませんが、その風景はある意味中国の大学の見どころの一つです。

次に、勉強についてです。大学を卒業した私がもし「大学生活について何が思い出されますか」と聞かれたら、「試験の前にすごく早起きして勉強したこと」と答えるでしょう。冗談のようですが、本当です。中国の大学生は試験の前日に徹夜で勉強する人もいますが、成績がよければ奨学金がもらえるので、普段から一生懸命勉強する人が少なくありません。大学に入った時、先生から頂いた一番印象的な言葉は「小さな試験（中間テスト）がある時はちょっとだけ休むこと、大きな試験がある（期末テスト）時はゆっくり休むこと、試験がない時はちゃんと勉強すること」です。また、中国ではアルバイトという概念がなく、学生は勉強するものだという考え方が強いと思います。中国は学歴社会で大学院生になりたい大学生が多いです。現状としては競争が激しく、とりあえず就職して、その後大学院に入ろうとする人も大勢います。また外国へ行って修士学位を取得しようと考える学生が珍しくないのです。面白いのは、日本の大学で、日本人の大学院生より、外国人の大学院生のほうが多いことです。

一方、日本の大学生は社会からの影響を強く

受け、アルバイトもできるし、日本は中国ほど学歴社会ではなくて、労働力が不足しているので、勉強しなくてもその後の就職にあまり困らないようです。日本では「芸人になりたい」「新しい道を見つけた」などという理由で大学を中退することがあるそうですが、中国では病気などで大学を中退する限り、まずありません。4年間の学生生活は、のびのびと好きなことをして、自分の将来を考えるいい期間だと思いますが、もう少し知識の蓄えをしてもいいと思います。

最後に、先生との関係についてお話したいと思います。母国では、小学生の時から、「先生は目上の人で、尊敬しなければならない」という教育を受けてきました。年をとるにつれて、先生に対するイメージがさらに「怖い、厳しい、友達になれない」と変わってきます。大学生になると、やっと大人になって冷静に考えて、先生と仲良くしたいと思うのですが、「いい成績がほしいから先生に近づこうとしている」などと誤解されるのが嫌なので、やはり先生は先生、プライベートで付き合っても、先生との間の壁は絶対越えてはいけないものというのが中国の大部分の大学生の考えでしょう。

一方で日本では、先生を大事にして、プライベートで先生と仲良くする大学生が多いと思います。遠慮なく先生と一緒に食事をしたり、「先生は教師になりたくてこの仕事を選んだんですか」と、かなりプライベートな質問をしたり、わざと先生の名前を間違えて、冗談を言ったり…。最初見た時、聞いた時は羨ましかったです。その時、頭の中で一生懸命中国の大学でのこのような光景を思い出そうとしましたが、結局思い出せませんでした。しかし、幸いなことに、このような光景が私の隣にあるのです。これからは努力して先生とコミュニケーションをとっていきたいと思っています。

私は今、日本にいます。

窓が閉まっていますが、運動場で野球をやっている元気な大学生たちの声がはっきり聞こえます。広い教室に座っている一人の私がその風景とどれほど合わないか、想像がつきません。同じ人間だけど、楽しみにしていることが異なるだけです。また、文化の違いによって両国の大学生との間に違いがあるのは当たり前です。このような違いがあるからこそ、世の中が面白くなるのです。私はそう思っています。

今は10月の終わり、朝夕は肌寒くなってきました。ちょっと寂しい感じがします。でも、講義中、発表でうまくできなかった時、先生が励ましてくださったりとか、日本人の同級生がわざわざ私の分の資料までコピーしてくれたりとか、本当に温かく感じて、感謝の気持ちでいっぱいです。最近発売したばかりのSMAPの「ありがとう」という曲を私の知っている人に聞かせたいと思います。なぜなら、それが私の今の気持ちだからです。

心から一言、「ありがとう。」

留学生からの一言

経済学研究科1年　　段　莹

光陰矢のごとし。知らず知らずのうちに日本に来て4年になりました。振り返ってみると、この4年間には、忘れられない瞬間がたくさんあります。例えば、はじめてアルバイトで給料をもらった時のうれしさ、友達と別れた時の悲しさ、はじめて奨学金をもらった時の驚き、レポートが書けない時の涙、先生や店長に褒められた時のスマイルです。

その中でも一番印象深いのは日本語学科での2年間の勉強です。日本語を全く勉強したことがなかった私にとって、日本へ来たばかりの生活は大変でした。毎日、自分に「日本へ来た意味があるのだろうか」と問い続けていました。でも、周りの留学生や学校の先生と心の交流ができて、自分への疑問がなくなりました。「頑張っていきたい」という信念が強くなりました。特に、学校の先生には感謝したいです。授業中の厳しさ、授業後の優しさを一生忘れることができません。

日本語の勉強は楽しいですが、それは日本へ来たことの最終目的ではないです。もし、大学院に入学できないのであれば日本へ来た意味が本当になくなります。日本語学科を卒業し、1年間の研究生としての勉強が終わった後、今年の4月に大学院の勉強が始まりました。以前の大変さは、多分生活からきたものです。でも、今の大変さは勉強からきています。最初、自分の勉強が順調に進まず、だんだん自信がなくなりました。でも、周りの友達や両親がずっと応援してくれ、先生もすごく優しく、なんでも私と相談してくれて、私は非常に感動しました。頑張るしかないです。

本当の留学生活は今からです。またいろいろな困難があるかもしれないですが、今の私は4年前の私とは違います。4年間の大変な生活を過ごした私は、自信を持って最後まで頑張っていきたいと思います。もし、誰かが私に「日本へ来たことを後悔していませんか」と聞いたら、私は「いいえ」とはっきり答えることができます。

最後になりますが、親にありがとう、先生にありがとう、友達にありがとうと言いたいです。今から、もっと、もっと、頑張ります。

留学生からの一言

医学系研究科博士課程1年
Rodney Itaki

Hello,
My name is Rodney Itaki and I am from Papua New Guinea. Some people think it's in Africa but actually it's just above Australia. It's a tiny country with just over 5 million people so you can be forgiven for not knowing much about it.

When I was asked by Suguri sensei to write something to contribute I could not come up with anything to write. Well, actually there are a million things to write about but just could not make up my mind. But I think most people would like to know why I am doing a Ph.D. course in the first place. My answer? Because I am mad! Yeah, sometimes I think I am insane! I mean knowing so much about a little thing that sometimes I think has no relevance to the real world is insanity, right? My friends think it's great to have the letters 'Ph.D.' after your name and my wife says its good for our future but I wish my mosquitoes in the laboratory would say something to me too. By the way, I am studying mosquitoes that transmit malaria. Papua New Guinea is notorious for malaria so maybe it's one of the reasons why I am here in Japan.

Willie, my classmate in medical school, is also doing Ph.D. course up in Hokkaido and he says Ph.D. stands for `Pile Higher and Deeper'. And I think most Ph.D. students will agree with this definition rather than the one given by universities ー 'Doctor of Philosophy'. I used to think that philosophers were people who think a lot so probably I do deserve the title, after all, I will be conducting experiments and sit on my desk starring on the computer screen for the next 3 years! But my friend's definition of piling higher and deeper is true for me. I mean, my desk is piled with stacks of journal papers that I might have read once or twice, computer accessories, CDs, tapes, and more papers. I have this sadness to throw away papers so I just keep them on my desk. I know that's crazy and that's why I think I am mad. The pile is getting higher and I am sinking deeper into insanity! If this is happening to me now, my first year, what's going happen to me in 3 years time?

If you think that I am disorganized, disorderly and plain lazy (don't forget madness) you are probably correct. My wife complains that I destroy her hard work of cleaning and organizing our apartment daily because by next morning, our apartment is a mess. There are more papers piling higher on our dinner table, my laundry is everywhere and my son's playing blocks are not packed. And it's all my fault because I am so disorganized and disorderly. If I ever learn one think from my stay in Japan is to be organized. I think Japanese people are generally very orderly and well organized. So maybe apart from the mental breakdown that I feel I am approaching from doing the Ph.D. course, I just might be more organized by the time I end up in a mental hospital. The end result? A very orderly, well-organized insane person who is obsessed with malaria and mosquitoes!

So if you are a Ph.D. student reading this than you are probably mad yourself too!

留学生からの一言

工学研究科博士後期課程3年　蔡　暢

2003年10月、私は中国から国費留学生として香川大学に入学しました。来日してまだ間もない頃、町に、紙や袋、カン等のごみがほとんど見られず、日本の町の清潔さと綺麗さに驚きました。そして、物価が高く、中国の生活水準に比べると5倍以上高いと感じました。しかし、時間の流れとともに、こちらでの生活にもだんだん慣れました。

香川大学に入学後、幸いなことに、工学研究科の呉研究室に入りました。呉研究室では、人間工学における様々な研究を行っています。私は脳に興味があり、脳と言語に関する研究を始めました。しかし、私にとって、脳と言語については全く新しい分野の研究でした。質問がある時は、呉先生や河内山先生がわかりやすく丁寧に指導して下さいました。両先生、そして研究室の学生さんが協力してくれたおかげで、私の研究の質が向上しました。

日本と中国では、文化や習慣が異なり、それぞれの生活を比べると面白い発見がたくさんあります。例えば、日本では、大学の寮が少ないため、ほとんどの学生は民間の部屋を借りて住んでいます。しかし、中国では、多くの学生は学校の寮に住んでいます。もう一つは、日本のテレビ番組には、健康と教育に関する番組が多いうえ、とても分かりやすいです。私は日本語があまり得意ではありませんが、番組の内容を理解することができます。特に私の研究に関連が深い番組があると、いつも楽しく見ることができ、勉強にもなります。その一方、中国では、ドラマが放映されることが多いのです。

私は、日本での大学生活において、研究だけではなく、国際交流にも積極的に参加しています。国際交流は、日本人学生や他の国の留学生とも交流ができ、多くのことを学ぶことができる絶好の機会です。私の研究室でも、日本人学生に中国について尋ねられると、いつも喜んで丁寧に説明します。今後、機会があれば、社会のボランテイア活動に参加したいと思っています。

時が経つのは早いもので、日本に来てから、もう3年が経過しました。今思えば、こちらでの生活は、楽しいことばかりではなく、時には母国を想い、寂しく感じるときもありました。しかし、来年3月にはもう卒業です。そのため、現在、博士論文の仕上げに追われています。そして、卒業前には、まだ訪れたことがない東京へ行き、秋葉原で電化製品の買物をしたいと思っています。

留学生からの一言

愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程3年
アファシ・ガンワ

Has it already been five years? It seems like just yesterday that I started my research on rare sugars in the Laboratory of Functional molecules at the food science department of the faculty of Agriculture of Kagawa University.

Before coming to Kagawa, from Syria, I almost had no idea about life in Japan. As most of the Middle Eastern people I had an obscure imagination about life in the Far East.

The city that I came from, Aleppo, is Syria's city of the north, which is situated only 1 hour away from the Turkish border. The city itself is a central 'old city', a long maze of narrow streets around the magnificent Aleppo citadel. As you go further away from the citadel, buildings and roads become more modern until you reach the boundaries of New Aleppo.

It would be a lie if I said that everyday of my life here was easy, I was for sure encountered with many difficulties. In spite of enduring the very humid summer in Japan, being an Arabic native-speaker was (and still) enough to make (Nihongo) my first and most important barrier in Kagawa. Arabic is the main language spoken in Syria. The Arabic alphabet has a few extra letters that do not exist in the normal Latin and Germanic languages. Arabic is also written from right to left.

When I first made the decision to stay in Kagawa for that long, for PhD, it seemed impossible at the beginning, but I have been lucky enough to be introduced to my professor, Yasuhiro Kawanami, who gave me lots of useful advises and encouragement, which in all, make my life and research easier than I, myself, expected.

It is the people in Kagawa that make this prefecture special. I was surrounded with a wonderful people who were always assisting me and helping in all regards.

There is my closest friend, a wonderful Japanese woman whom I consider myself privileged to know, she has taught me so much not only about life in Japan but also about life in general.

Then there is my former Japanese teacher, a beautiful person both inside and out who was there in every time I was in need for her help, valuable guidance, and wise advice, we often got together and spent a great deal of time laughing.

Next is a lady whom my daughter and I, were always extremely happy to be with, we visited together so many different places in Japan, we spent those amazing times together inside and outside Kagawa. Furthermore, she was of a great help to me during the most difficult times of my 5 years life in Kagawa.

Then of course there is many other fantastic friends who enriched my life in such a way that words cannot describe. This is not to mention those I have met through my visits to towns or those I met while I was hospitalized.

Then top of that I have had the wonderful opportunity to meet people from countries all over the world. They have given me memories that I will cherish. Every single day I spent with them in Kagawa has been a golden chance in my life-

time to meet them. Now, instead of going into raptures over how wonderful my life was in Kagawa and telling you how much I'm going to miss it (which is true), In fact, my five years in Kagawa, was a mixture of easy and hard.

*On one hand, I was (and still) fascinated by the Japanese traditions and culture; I was particularly taken by the customs associated with the celebration of Japanese most important religious festival, called O-bon- the festival of the dead. With white paper lantern platforms placed in front of most of the Japanese houses, Japanese celebrate O-bon, by making excursions, on three consecutive nights in the second week of August, to the family graves, where the soul of the dead are being guided and welcomed home, to the spot where they dwelt as living beings, to visit their relatives, who pay respect to them, during this three-day-long festival.

I admire and respect the reverence shown to the dead, it was always wonderful moment to watch Japanese pausing to clap their hands, close their eyes and bow their heads in a moment of prayer for the dead.

*On the other, I was subjected (sometimes) to unbearable stress and frustration in my early life in Japan, as I struggled through my daily round of endless duties as a wife, mother, and a researcher student. Being a mother in a foreign country was enough to keep me worried every morning after sending my daughter to her school. Although statistics will probably show that Japan is measurable safer than one's home country, that is not to say that crime and violence are absent. It would be naive to think that bad things do not happen to undeserving people in many bad chances. Furthermore, no where else is the expense of living in Japan which is more obvious that during domestic travel. The cost of visiting a nearby city can be ridiculous.

Regardless any difficulties (which are much less than the facilities), one finds himself in need to talk about the things that he enjoyed in Japan, for me, I would like to share my personal top things I love about Kagawa:

*As everybody knows, Kagawa is famous for Sanuki Udon, and as almost everybody knows, there is quite a big variety of Udon kinds served in all Udon shops in Kagawa... When I first came to Kagawa, I couldn't get accustomed with the food at all; in fact I didn't like Udon! I had thought that Udon was mushy and tasteless. Now, I like Udon just as much as a native Sanukiite (but I still cannot bring myself to eat Udon for breakfast). One of the things I like about Udon in Kagawa is not only that it's an economical and healthy food but also it is a conversation topic. People talk about udon the way strangers talk about the weather. I usually have the simple, Kake udon but I also like to try other kinds too! Recently I ventured into the Hanamaru Udon shop. I really like this shop, not for the udon noodles itself (which are good, too) but for the nice soup they use for it (beside lots of memories which I had with extraordinarily beloved friends there). I would like to say as much as everybody tends to think, that Sanuki Udon is the greatest of all the foods in Japan.

*Talking about food can never be (in some cases) separated from talking about festivals in Japan, as there are so many festivals happening all over Shikoku. One of my favorites, Awa Odori is a huge festival that takes place in Tokushima every year during the O-bon days. The dance originated from a special dance to welcome ancestral spirits with exciting singing and many dancers dressed in generously colored outfits make the dance very much fun to watch. In Kagawa as well, there are many lively summer festivals such as the colorful Sanuki Takamatsu city festival which has beautiful shows of dancing followed by fireworks held usually in the Sunport Takamatsu area where there is a spectacular view of the Seto Inland sea, that area in fact has become with the opening of Symbol Tower in 2004 with all the restaurants, cafes and bars opened there, more attractive to all the people of Takamatsu and Kagawa in all seasons.

I am often asked, "Syria doesn't have seasons does it?" We do have seasons it is just that they are as defined as in Japan, however, the city where I live, Aleppo, has a rather colder winter and drier summer.

Spring, in Japan, is one thing that I'm gonna really miss because of the cherry blossoms. In spring, scores of Japanese people young and old, from all walks of life sweep down in droves onto the nearest Sakura-viewing spot, to celebrate the first blooms of the season and the end of the cold winter months. All in the name of hanami (flower-viewing). Theoretically, the week beginning on the 24th of March is the traditional week for the Sakura front, which sweeps across Japan from Okinawa, to hit the Shikoku region. However, from time to time, sudden changes in temperature can cause the cherry blossoms to flower and fall prematurely. Cherry blossoms wherever they may bloom are beautiful. They are beautiful while they are blooming and then again as they fall off the tree, reminding one of falling snow. Indeed, going all out with a group of Japanese friends is probably one of the best ways to ensure a truly satisfying hanami experience. The hanami season in Kagawa officially starts when the somei-Yoshino Sakura trees burst into flower in Ritsurin Park, which is as I believe one the most beautiful parks in Kagawa in all seasons.

Although spring, my favorite season, is followed by my least favorite season in Japan, summer, I wonderfully enjoyed the Japanese way of greeting the coming of Summer by spending the last few days of April and the first few days of May on vacation. This joyful time, referred to as Golden week, which is, in fact, a bad time to travel or even to move within the city. You may want to stay a little closer to home, so as not to miss out most of your vacation time as I did in my early golden week in Kagawa.

Now, autumn is here, in autumn with the leaves turning yellow and falling off the trees. As a child and even as an adult, there is nothing better than the sound of the leaves crunching under your feet as you go for an autumn walk, In Kagawa, the most beautiful place in fall is Kotohira where the trees that line the steps up to the shrine as well as maple trees that surround the back road leading up to the shrine administration office.

Indeed, at present, my life in Kagawa is very stimulating and full of joy; I'll always remember those years with a special pleasure and an endless love. I find myself always moved to tears remembering the most important steps I've been through in this country.

I would like to bow and thank Allah, my lord, to have brought me all along the distance to spend this wonderful time of my life and to learn about such a rich culture, I'll never forget about you Japan.

特集 国際交流

2006年度 日本留学フェア・レポート（台湾・韓国）

留学生センター講師　高水 徹

日本留学フェアは日本学生支援機構（JASSO）が主催し、海外で行われる大学説明会で、今年も本学は台湾と韓国で開催されたものに参加しました。このフェア自体は他の場所でも行われるのですが、本学はこの2年間、この2ヶ所に限定して参加しています。理由は、台湾や韓国は地理的にも経済的にも、本学への多くの留学生が見込めるにも関わらず、現在のところ、その人数が非常に少ないからです。

台湾は塩田留学生グループチーフと私（高水）が担当となりました。7月28日は高雄の工商展覧中心が、同30日は台北の世界貿易中心が会場となりました。来場者総数は前者が1040名、後者が3600名です。これは昨年と比べどちらも倍以上であり、開催時期を昨年より1月遅らせ、学生が来やすい時期にしたことが大きな効果をもたらしたと考えることができます。本学のブースにも、計100名以上の方が訪れてくださいました。実際、昨年は私たちも多少の「暇」がありましたが、今年は余裕がありませんでした。質問内容は昨年同様、台湾では大学院の入試や研究内容に関するものが多くありました。

韓国は湯浅留学生グループリーダーと（高水）が担当となりました。9月9日は釜山のBEXCOが、同10日はソウルのCOEXが会場となりました。来場者総数は前者が1596名、後者が2918名で、これは台湾のように倍ではありませんが、やはり過去最高とのことでした。韓国での質問内容は、これも昨年同様なのですが、編入の可能性や難易度に関するものが多くありました。韓国では学部留学の希望者が多く、台湾では大学院留学の希望者が多いことが、質問内容の違いとなって表われています。昨年は、どちらかというと留学を現実的なものとしてではなく、「箔をつける」ために考えているような参加者が多かったようですが、今年はかなり具体的なものとしてとらえている参加者が多く、受験料の送金方法、というような質問まで出ました。

本学のスタッフとして、これら潜在的な留学生のニーズに応えられる体制を作っていきたいと思います。

日本留学フェア（台湾にて）

日本留学フェア（韓国にて）

平成18年度
外国人留学生課外教育行事について

留学生グループ　チーフ　塩田　純久

本学の外国人留学生に対する日本の文化等についての理解を深めるとともに、留学生間の親睦・交流を図ることを目的とした平成18年度課外教育行事が、平成18年9月29日（金）、9月30日（土）の2日間及び11月6日（月）の2回行われました。

第1回の課外教育行事は、9月29日（金）国営明石海峡公園及び神戸市にある「人と防災未来センター」を見学し、9月30日（土）は、池田市にあるインスタントラーメン発明記念館、大阪城及びNHK大阪放送局を見学しました。

「人と防災未来センター」では、ボランティアガイドから阪神淡路大震災の体験について説明を聞き、外国人留学生も震災の恐ろしさについて理解を深めたようです。インスタントラーメン発明記念館では、世界初のインスタントラーメンであるチキンラーメンができた経緯を聞き、チキンラーメンの手作り実習に挑戦しました。NHK大阪放送局では、テレビの前でアナウンサーの体験をして、外国人留学生たちは、大変喜んでいました。

続く第2回の課外教育行事は、11月6日（月）に行われ、外国人留学生と共に、日本人チューターや外国人留学生業務にたずさわっている教職員も参加して、徳島の鳴門公園、渦の道、阿波踊り会館、大塚グループ徳島工場を見学しました。阿波踊り会館では、外国人留学生達は、阿波踊りに飛び入りで挑戦し、大いにはしゃいでいました。

この2回の課外教育行事を通じて外国人留学生は、日本の文化等についての理解を深めると共に、外国人留学生間及び日本人学生並びに教職員との親睦・交流を深めることができました。

●第1回外国人留学生課外教育行事

開催日　平成18年9月29日（金）、9月30日（土）
見学場所　国営明石海峡公園、人と防災未来センター、インスタントラーメン発明記念館、大阪城、NHK大阪放送局

●第2回外国人留学生課外教育行事

開催日　平成18年11月6日（月）
見学場所　鳴門公園、渦の道、阿波踊り会館、大塚グループ徳島工場

課外教育行事に参加して

教育学研究科1年　　朝格吉楽図

香川大学の教育学研究科に入学して半年ぐらいになります。この度、課外学習で関西方面に行ってきました。留学生支援グループの先生方のおかげで、普段あまり交流することができない世界各国からの留学生と交流することができました。同じ留学生同士でも、それぞれの国籍や留学の目的が違っていて、お互いに自分たちの留学生活での経験等を話し合って、よい異文化コミュニケーションができたと思います。

みんなが兵庫県の明石公園のすばらしい自然風景に癒されて、子どものように遊んだり、写真を撮ったりしていたのはとても印象的でした。現在、地球上では、自然災害が頻繁に起こっています。その凄まじさを淡路大震災が物語っています。何よりも、大震災が起こった後の対策が如何に重要であるかを「阪神・淡路大震災記念・人と防災未来センター」で実感しました。命の尊さ、共に生きる素晴らしさをいつでも忘れてはいけないと思いました。

今回の課外学習を通じて、日本のすばらしい自然に触れることができ、更に、日本の文化や自然災害について勉強することができて、とても充実した時間を過ごしました。最後に、このようなすばらしい旅を企画して下さった留学生支援グループの先生方に留学生を代表して感謝し、お礼を申し上げます。

国営明石海峡公園にて

人と防災未来センターにて、ボランティアガイドと共に（神戸）

特集 国際交流

インスタントラーメン発明記念館にて

阿波踊り会館にて

大塚グループ徳島工場にて

国際理解教育授業等に参加して
（桜町中学校、紫雲中学校及び三本松高校）

留学生グループ　チーフ　塩田　純久

外国人留学生が、10月17日（火）桜町中学校及び10月24日（火）紫雲中学校において国際理解教育の授業に、11月17日（金）三本松高校では、国際コミュニケーション類型（1日英語体験プログラム）の授業に参加しました。

桜町中学校及び紫雲中学校では、中学校の生徒たちと、母国の文化や言語について一緒に話をしました。三本松高校では、国際コミュニケーション類型の生徒たちと、英語だけで会話を楽しみました。

それぞれの学校の生徒たちからは、外国人留学生との国際交流ができたと、大変喜ばれました。

また、後ほど、桜町中学校及び紫雲中学校の生徒たちからは、外国人留学生へ感想文が届けられました。

外国人留学生たちは、貴重な国際交流を体験すると共に、地域の国際交流に貢献することができて、大いに喜んでいました。

10月17日（火） 桜町中学校参加者	張蓮玉（中国）経済学研究科1年、　鐘 明（中国）経済学部4年 金鎮國（韓国）農学研究科2年 Gullapalli Pushpa Kiran（インド）愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程1年
10月24日（火） 紫雲中学校参加者	趙亮（中国）地域マネジメント研究科2年

Gullapalli Pushpa Kiran（インド）（桜町中学校にて）

金鎮國（韓国）（桜町中学校にて）

張蓮玉（中国）（写真左側）、鐘 明（中国）（写真右側）
（桜町中学校にて）

趙 亮（中国）（紫雲中学校にて）

11月17日（金） 三本松高校参加者	ROXAS, Rodrigo Faustino（フィリピン）教育学研究科研究生 PELICH,NICOLAS MAURICIO（アルゼンチン）医学系研究科1年 KAZI RAFIQUL ISLAM （バングラデシュ）医学部研究生 HASAN ARIF -UL-（バングラデシュ）医学系研究科2年 Gullapalli Pushpa Kiran（インド）愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程1年 GHANWA AFACH（シリア）愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程3年 HOSSAIN MOHAMMAD ANWAR（バングラデシュ）農学研究科1年

高校生と初顔合わせ

Roxas, Rodrigo Faustino（フィリピン）

Ghanwa Afach（シリア）

Gullapalli Pushpa Kiran（インド）

Hossain Mohammad Anwar（バングラデシュ）

Pelich, Nicolas Mauricio（アルゼンチン）

Hasan Arif -UL-（バングラデシュ）

Kazi Rafiqul Islam（バングラデシュ）

外国人留学生数

学部別内訳 Number of International Students by Faculties

（平成18年11月1日現在）
(As of November 1,2006)

区分 Classification / 学部 Faculty	1年 Freshmen		2年 Sophomore		3年 Junior		4年 Senior		研究生 Research Student		特別聴講学生 Auditor	科目等履修生	小計 Sub Total		合計 Total
	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	私費 Private Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	
教育学部 Faculty of Education		(1) 1		(2) 2		(1) 1		(2) 2		(5) 6	(3) 3	(7) 7	(0) 0	(21) 22	(21) 22
法学部 Faculty of Law		(0) 2		(0) 1		(1) 1		(2) 3					(0) 0	(3) 7	(3) 7
経済学部 Faculty of Economics		(1) 3	(0) 1	(3) 7		(2) 5		(1) 2		(1) 2	(1) 2	(1) 1	(0) 1	(10) 22	(10) 23
医学部 Faculty of Medicine									(0) 1	(0) 1			(0) 1	(0) 1	(0) 2
工学部 Faculty of		(0) 2		(1) 2		(1) 2		(1) 1	(0) 2	(0) 1			(0) 2	(3) 8	(3) 10
農学部 Faculty of Agriculture				(1) 1		(1) 1		(1) 1	(0) 1				(0) 1	(3) 3	(3) 4
合計 Total	(0) 0	(2) 8	(0) 1	(7) 13	(0) 0	(6) 10	(0) 0	(7) 9	(0) 4	(6) 10	(4) 5	(8) 8	(0) 5	(40) 63	(40) 68

※（　）内は女子を内数で示す。　(　) indicates the number of female students.

研究科別内訳 Number of International Students by Graduate School

（平成18年11月1日現在）
(As of November 1,2006)

区分 Classification / 研究科 Graduate School	修士課程 Master's program				博士課程 Doctoral program								研究生 Research Student		教員研修留学生 Teacher Training Sutdent	特別研究学生 Auditor	特別聴講学生 Auditor	小計 Sub Total		合計 Total
	1年 First year		2年 Second year		1年 First year		2年 Second year		3年 Third year		4年 Fourth year									
	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	私費 Private Expense	国費 National Expense	私費 Private Expense	
教育学研究科 Graduate School of Education		(6) 7		(6) 8											(0) 1			(0) 1	(12) 15	(12) 16
法学研究科 Graduate School of Law		(1) 1																(0) 0	(1) 1	(1) 1
経済学研究科 Graduate School of Economics	(0) 1	(3) 6	(1) 1	(5) 8														(1) 2	(8) 14	(9) 16
地域マネジメント研究科 Graduate Schoool of Management		(1) 1		(1) 3										(0) 1				(0) 0	(2) 5	(2) 5
医学系研究科 Graduate School of Medicine					(0) 4	(2) 2	(1) 2	(0) 1	(0) 1	(2) 2	(2) 3	(2) 2				(1) 1		(3) 10	(7) 8	(10) 18
工学研究科 Graduate School of Engineering		(1) 5	(0) 1	(0) 2	(0) 1	(1) 4	(0) 1	(0) 2	(0) 1	(1) 4			(0) 1					(0) 5	(3) 17	(3) 22
農学研究科 Graduate School of Agriculture	(1) 5	(1) 1	(3) 6	(1) 2													(0) 1	(4) 11	(2) 4	(6) 15
小計 Sub Total	(1) 6	(13) 21	(4) 8	(13) 23	(0) 5	(3) 6	(1) 3	(0) 3	(0) 2	(3) 6	(2) 3	(2) 2	(0) 1	(0) 1	(0) 1	(1) 1	(0) 1	(8) 29	(35) 64	(43) 93
連合農学研究科 The United Graduate School of Agricultute					(5) 13		(3) 8		(6) 9									(14) 30	(0) 0	(14) 30
合計 Total	(1) 6	(13) 21	(4) 8	(13) 23	(5) 18	(3) 6	(4) 11	(0) 3	(6) 11	(3) 6	(2) 3	(2) 2	(0) 1	(0) 1	(0) 1	(1) 1	(0) 1	(22) 59	(35) 64	(57) 123

※（　）内は女子を内数で示す。　(　) indicates the number of female students.
工学部の博士（前期）課程は修士課程の欄に表記する。

外国人留学生数

国別内訳 Number of International Students by Countries

（平成18年11月1日現在）
(As of November 1,2006)

区分 Classification / 地域名 Region	国名 Country	学部生 Undergraduate Student 国費 National Expense	学部生 私費 Private Expense	大学院生 Graduate Student 修士課程 Master's Program 国費 National Expense	修士課程 私費 Private Expense	博士課程 Doctoral Program 国費 National Expense	博士課程 私費 Private Expense	研究生 Research Student 国費 National Expense	研究生 私費 Private Expense	教員研修留学生 Teacher Training Student 国費 National Expense	特別聴講学生 Auditor 私費 Private Expense	特別研究学生 Auditor 私費 Private Expense	科目等履修生 Auditor of elective courses only 国費 National Expense	留学生センター留学生 International Student Center Student 国費 National Expense	計 Sub Total 国費 National Expense	計 私費 Private Expense	連合農学研究科 The United Graduate School of Agriculture 国費 National Expense	連合農学研究科 私費 Private Expense	合計 Total 国費 National Expense	合計 私費 Private Expense	総計 The Sum Total
アジア Asia	インド India	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 2
	インドネシア Republic of Indonesia	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1
	韓国 Republic of Korea	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 2	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(1) 2	(1) 3
	タイ Thailand	(0) 0	(0) 0	(3) 6	(2) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(3) 7	(2) 3	(10) 13	(0) 0	(13) 20	(2) 3	(15) 23
	中国 People's Republic of China	(0) 0	(20) 36	(1) 3	(23) 39	(3) 8	(6) 14	(0) 3	(4) 9	(0) 0	(2) 2	(1) 1	(8) 8	(0) 0	(4) 14	(64) 109	(1) 3	(0) 0	(5) 17	(64) 109	(69) 126
	パキスタン Islamic Republic of Pakistan	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1
	バングラデシュ People's Republic of Bangladesh	(0) 0	(0) 0	(0) 2	(0) 1	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 4	(0) 1	(1) 4	(0) 0	(1) 8	(0) 1	(1) 9
	フィリピン Philippines	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 2
	ベトナム Viet nam	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(1) 2	(0) 0	(2) 3	(0) 0	(2) 3
	マレイシア Malaysia	(0) 0	(1) 3	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 5	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 5	(1) 5
	ネパール Nepal	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 2
	台湾 Taiwan	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(2) 2	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(4) 4	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(4) 4	(4) 4
	ブルネイ Brunei Darussaiam	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(1) 1
中南米 Central&South America	アルゼンチン Argentine Republic	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1
	ドミニカ共和国 Dominican Republic	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1
欧州 Europe	ブルガリア Bulgaria	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1
	ドイツ Federal Republic of Germany	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(1) 1
大洋州 Oceania	パプアニューギニア Papua New Guinea	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1
中東 Middle East	シリア Syria	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(1) 1
アフリカ Africa	エジプト Arab Republic of Egypt	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(1) 1	(1) 2
	コンゴー民主共和国 Democratic Republic of the Congo	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1
計 Total		(0) 1	(22) 40	(5) 14	(26) 44	(3) 13	(8) 17	(0) 5	(6) 11	(0) 1	(4) 6	(1) 1	(8) 8	(0) 0	(8) 34	(75) 127	(14) 30	(0) 0	(22) 64	(75) 127	(97) 191

※（　）内は女子を内数で示す。　( ) indicates the number of female students.
工学部の博士（前期）課程は修士課程の欄に表記する。

学術交流協定一覧

大学間協定

平成18年11月1日 現在

主幹学部	大学名等	国　名	都市名	締結年月日	協 定 書 有効期限	教官・研究者交流	学生交流	単位互換	授業料不徴収	細則締結年月日	細則有効期限	備　考
農学部	カセサート大学	タイ王国	バンコク市	1999. 1.20 再締結 (1988. 8.25) 一般的覚書締結	5年間有効 以降同期間づつ更新 * 2009.1.19	○	○	○	○	1997. 5.15	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.5.14	農学部及び大学院農学研究科がカセサート大学水産学部及び大学院水産学研究科と学術交流協定に関する実施細則締結
								○	○	1997.12.17	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.12.16	農学部及び大学院農学研究科がカセサート大学農学部及び大学院農学研究科と学術交流協定に関する実施細則締結
								○	○	1997.12.17	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.12.16	農学部及び大学院農学研究科がカセサート大学農産学部及び農産学研究科と学術交流協定に関する実施細則締結
								–	–	1999.1.20	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2009.1.19	農学部及び大学院農学研究科とがカセサート大学食品科学開発研究所と学術交流協定に関する覚書締結
農学部	チェンマイ大学	タイ王国	チェンマイ市	1990. 4.24 一般的覚書締結	限定していない （変更又は解消は、両者の合意による） （2009.12.21）	○	○	○	○	1997.12.11	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.12.10	農学部及び大学院農学研究科がチェンマイ大学農産学部及び大学院農産学研究科と学術交流協定に関する実施細則締結
								○	○	1997.12.12	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.12.11	農学部及び大学院農学研究科がチェンマイ大学農学部及び大学院農産学研究科と学術交流協定に関する実施細則締結
								○	○	1999.12.22	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2009.12.21	農学部及び大学院農学研究科がチェンマイ大学理学部及び大学院理学研究科と学術交流協定に関する実施細則締結
								○	○	2005.2.9	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2010.2.8	工学部及び大学院工学研究科がチェンマイ大学工学部及び大学院工学研究科との学術交流協定に関する実施細則締結
法学部	ルイビル大学	アメリカ合衆国	ケンタッキー州ルイビル市	1997. 9. 2	限定していない （通知後90日をもって解消） （2007.9.3）	○	○	○	×	1997. 9.4	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.9.3	法学部及び大学院法学研究科がルイビル大学ロースクールと学術交流の実施細則締結
工学部	サボア大学	フランス共和国	アヌシー市	2000. 3.24	限定していない （通知後90日をもって解消） （2010.3.23）	○	○	–	–	2000.3.24	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2010.3.23	工学部及び大学院工学研究科がｻﾎﾞｱ大学ｱﾇｼｰ高等学院(ESIA)と学術交流の実施細則締結
								–	–	2000.3.24	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2010.3.23	工学部及び大学院工学研究科がｻﾎﾞｱ大学ｱﾇｼｰ高等学院と国際ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ協定締結
								○	○	2004.4.27	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2009.4.26	学生交流プログラムの実施細則締結
農学部	南京農業大学	中華人民共和国	南京市	2001. 7. 4 1996.5.6 農学部が南京農業大学と学部間交流締結	10年間有効 (継続は申し入れ、解消は1年前に申し出) 2011.7.3	○	○	○	○	2001.7.4	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2011.7.3	大学間交流協定に関する学生交流の実施細則締結
								○	○	2001.7.4	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2011.7.3	農学部及び大学院農学研究科が南京農業大学と学部間の実施細則締結
工学部	ミュンヘン工科大学	ドイツ連邦共和国	ミュンヘン市	2002. 2.13	限定していない （通知後90日をもって解消） （2007.2.12）	○	○	○	○	2002.2.13	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.2.12	学生交流ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに関する実施細則締結
								○	○	2002.2.13	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.2.12	工学部がﾐｭﾝﾍﾝ工科大学工学系学部と学術交流の実施細則締結
農学部	メチョー大学	タイ王国	チェンマイ市	2002.3.7 1999.12.21 農学部がメチョー大学と学部間交流締結	10年間有効(継続は申し入れ、解消は1年前に申し出) 2012.3.6	○	○	○	○	2002.3.7	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.3.6	大学間交流協定に関する学生交流の実施細則締結
								○	○	2002.3.7	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.3.6	農学部及び大学院農学研究科がﾒﾁｮｰ大学農業生産学部及び大学院研究科と学術交流協定に関する実施細則締結
法学部	国立政治大学	台　湾	台北市	2002. 3. 19	限定していない （通知後90日をもって解消） （2007.3.18）	○	○	○	○	2002.3.19	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.3.18	大学間交流協定に関する学生交流の実施細則締結
								○	○	2002.3.19	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.3.18	法学部及び大学院法学研究科が国立政治大学法学院と学術交流の実施細則締結
経済学部	ヴィースバーデン大学	ドイツ連邦共和国	ヴィースバーデン市	2002.9.23 1997.12.15 経済学部がヴィースバーデン大学と学部間交流締結	10年間有効 (継続は申し入れ、解消は1年前に申し出) 2012.9.22	○	○	○	○	2002.9.23	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.9.22	大学間交流協定に関する学生交流の実施細則締結
								○	○	2002.9.23	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.9.22	経済学部がｳﾞｨｰｽﾊﾞｰﾃﾞﾝ大学経済学部と学術交流の実施細則締結
								○	○	2003.9.12	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2008.9.11	農学部がｳﾞｨｰｽﾊﾞｰﾃﾞﾝ大学醸造学部と学術交流の実施細則締結
教育学部	コロラド州立大学	アメリカ合衆国	コロラド州フォートコリンズ市	2002.10.8 国際交流協定覚書	5年間有効（更新は両大学の再署名、解消は60日前に通知）2007.10.7	○	○	–	–			細則締結なし
工学部	韓国海洋大学校	大韓民国	釜山市	2002.12.18	10年間有効(継続は申し入れ、解消は1年前に申し出) 2012.12.17	○	○	○	○	2002.12.18	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.12.17	大学間交流協定に関する学生交流の実施細則締結
								○	○	2002.12.18	5年間有効 以降同期間づつ更新* 2007.12.17	工学部及び大学院工学研究科が韓国海洋大学校工学部及び大学院と学術交流協定に関する実施細則締結
工学部	上海大学	中華人民共和国	上海市	2003. 9. 1 1999. 8. 9 工学部が上海大学と学部間交流協定締結	5年間有効(継続は申し入れ、解消は1年前に申し出) 2008.8.31	○	○	○	○	2003.9.1	協定と同一期間 2008.8.31	学生交流プログラムに関する実施細則締結
								○	○	2003.9.1	協定と同一期間 2008.8.31	経済学部及び大学院経済学研究科が上海大学文系学院と学術交流協定書に関する実施細則締結
								○	○	2003.9.1	協定と同一期間 2008.8.31	工学部及び大学院工学研究科が上海大学工科系学院と学術交流に関する実施細則締結
工学部	ハルビン工程大学	中華人民共和国	黒龍江省哈爾濱市	2005.2.23 2003.12.22 工学部が工科系学院と学部間交流協定締結	5年間有効(継続は申し入れ、解消は1年前に申し出) 2010.2.22	○	○	○	○	2005.2.23	協定と同一期間 2010.2.22	学生交流プログラムに関する実施細則締結
								○	○	2005.2.23	協定と同一期間 2010.2.22	工学部及び大学院工学研究科とハルビン工程大学と学術交流の実施細則締結
								○	○	2005.2.23	協定と同一期間 2010.2.22	地域マネジメント研究科とハルビン工程大学経済管理学院との実施細則締結
経済学部	大邱大学校	大韓民国	慶尚北道慶山市	2005.5.17	5年間有効(継続は申し入れ、解消は90日前に申し出) 2010.5.16	○	○	○	○	2005.5.17	協定と同一期間 2010.5.16	経済学部が大邱大学校との学術交流協定に関する実施細則締結
農学部	カディス大学	スペイン	カディス市	2006.1.31	5年間有効(継続は申し入れ、解消は90日前に申し出) 2011.1.30	○	○	○	○	2006.1.31	協定と同一期間 2011.1.30	農学部及び大学院農学研究科とカディス大学理学部及び大学院理学研究科と学術交流に関する実施細則締結
工学部	南ソウル大学校	大韓民国	天安市	2006.3.7	5年間有効(継続は申し入れ、解消は90日前に申し出) 2011.3.6	○	○	○	○	2006.3.7	協定と同一期間 2011.3.6	学生交流プログラムに関する実施細則締結
								○	○	2006.3.7	協定と同一期間 2011.3.6	工学部及び大学院工学研究科と南ソウル大学工学系及び大学院と学術交流の実施細則締結
								○	○	2006.3.7	協定と同一期間 2011.3.6	経済学部と南ソウル大学商経系学部との学術交流の実施細則締結

*は、解消には、6ヶ月前に書面による申し出が必要

学術交流協定一覧

部局間協定

平成18年11月1日 現在

学部名	大学名	国　　名	都市名	締結年月日	協 定 書 有効期限	教官・ 研究者交流	学生 交流	単位 互換	授業料 不徴収	細則締結 年月日	細則有効期限	備　　考
教育学部 大学院教育学研究科	誠信女子大学校美術大学及び造形大学院	大韓民国	ソウル市	2001. 3.14	5年間有効　以降同期間づつ更新☆ 2011.3.13	○	○	○	○	2001. 7.12	5年間有効　以降同期間づつ更新☆ 2011.7.11	
教育学部	清州大学校人文大学	大韓民国	清州市	2001. 7. 9	5年間有効　以降同期間づつ更新☆ 2011.7.8	○	○	○	○	2001. 7. 9	5年間有効　以降同期間づつ更新☆ 2011.7.8	
教育学部	クライストチャーチ総合技術大学人文学部	ニュージーランド	クライストチャーチ市	2002. 1.23	5年間有効　以降同期間づつ更新☆ 2007.1.22	○	○	－	－			細則締結なし
教育学部 大学院教育学研究科	江西師範大学・国際教育学院	中華人民共和国	江西省南昌市	2005.2.25	5年間有効　以降同期間づつ更新☆ 2010.2.24	○	○	○	○	2005.2.25	5年間有効　以降同期間づつ更新☆ 2010.2.24	
法学部 大学院法学研究科	上海社会科学院法学研究所	中華人民共和国	上海市	1996. 9. 2	5年間有効(解消の通知がない場合は、5年間延長) * 2011.9.1	○	○	－	－	1996.12.10	特に定めはない （2011.9.1）	
法学部 大学院法学研究科	華東政治法律学院	中華人民共和国	浙江省杭州市	1996. 9. 5	5年間有効(解消の通知がない場合は、5年間延長) * 2011.9.4	○	○	○	○	1996.11.11	特に定めはない （2011.9.4）	
経済学部 大学院経済学研究科	西北大学	中華人民共和国	西安市	1999.8.30 再締結 (1994.10.24当初締結)	5年間有効　以降同期間づつ更新 # 2009.8.29	○	○	○	○	1999. 8.30	特に定めはない （2009.8.29）	
経済学部	南フロリダ大学 経営学部	アメリカ合衆国	フロリダ州 タンパ市	1999.12.2 覚書再締結 (1994.11.21当初締結)	5年間有効　以降同期間づつ更新 # 2009.12.1	○	○	○	○	1996. 2.21	特に定めはない （2009.12.1）	
経済学部 大学院経済学研究科	ボン=ライン=ズィーク大学 経済学部	ドイツ連邦共和国	ﾉﾙﾄﾗｲﾝ=ｳﾞｪｽﾄﾌｧｰﾚﾝ州 ｻﾞﾝｸﾄ・ｱｳｸﾞｽﾃｨﾝ市	2000.12.15	5年間有効 (延長は相互の合意による、解消は、3月末以前に通知) 2010.12.14	○	○	○	○	2000.12.15	特に定めはない （2010.12.14）	
医学部	カルガリ大学 医学部	カナダ	アルバータ州 カルガリー市	1989. 7.31	限定していない (通知後6ヶ月をもって解消) （2008.12.4）	○	○	○	○	1989. 7.31 1990. 1.10 1995.12.25	特に定めはない （2008.12.4）	
医学部	中国医科大学	中華人民共和国	沈阳市	1997. 8.28	限定していない （通知後6ヶ月をもって解消） （2008.12.4）	－	○	○	○	1997. 8.28	特に定めはない （2008.12.4）	
医学部 (看護学科)	カルガリ大学 看護学部	カナダ	アルバータ州 カルガリー市	2001. 1.17	5年間有効 (延長は相互の合意による) * 2011.1.16	○	○	○	○	2001. 7. 9	特に定めはない （2011.1.16）	
医学部	河北医科大学	中華人民共和国	河北省石家庄市	2001.11.27	限定していない (通知後6ヶ月をもって解消) （2008.12.4）	○	○	○	○	2001.11.27	特に定めはない （2008.12.4）	
工学部	ブリテッシュコロンビア大学 応用科学部	カナダ	ブリテッシュ・コロンビア州 バンクーバー市	2001. 7.31	3年間有効 (延長は相互の合意による) * 2009.7.30	○	○	○	○	2002. 7.15 (2002.7.8)	協定と同一期間 2009.7.30	実施細則は、国際インターンシッププログラムを締結
工学部	ボン=ライン=ズィーク大学	ドイツ連邦共和国	ﾉﾙﾄﾗｲﾝ=ｳﾞｪｽﾄﾌｧｰﾚﾝ州 ｻﾞﾝｸﾄ・ｱｳｸﾞｽﾃｨﾝ市	2002. 2.12	5年間有効　以降同期間づつ更新 * 2007.2.11	○	○	－	－	2002. 2.12	5年間有効 (1年間は、試行期間) 以降同期間づつ更新 * 2008.2.11	実施細則は、国際インターンシッププログラムを締結
工学部	中国電子科学技術大学 工科系学院	中華人民共和国	四川省成都市	2004.3.29	5年間有効 延長は再度協議# 2009.3.28	○	○	－	－	2004.3.29	特に定めはない （2009.3.28）	
農学部 大学院農学研究科	ダッカ大学 生物科学部	バングラデシュ	ダッカ市	1998.12.15	10年間有効 以降同期間づつ更新 * 2008.12.14	○	○	○	○	1998.12.15	5年間有効　以降同期間づつ更新 * 2008.12.14	
農学部 大学院農学研究科	ミシガン州立大学 農学・自然資源学部	アメリカ合衆国	ミシガン州 イーストランシング市	1999. 3.22	5年間有効 (延長は交流成果を再評価し決定、解消は、3ヶ月前に申し出) 2009.3.21	○	○	○	○	2000. 2.23 (2000.2.7)	5年間有効(延長は両大学の合意のもと、解消は、90日前に申し出) 2010.2.22	実施細則は、学生交流協定
農学部 大学院農学研究科	ボゴール農業大学 農学部及び大学院研究科	インドネシア	ボゴール市	2000. 6.13	10年間有効 以降同期間づつ更新 * 2010.6.12	○	○	○	○	2000. 6.13	5年間有効 以降同期間づつ更新 * 2011.6.12	
農学部 大学院農学研究科	西オーストラリア大学 自然科学・農学部	オーストラリア	西オーストラリア州 パース市	2002. 3.28	10年間有効 以降同期間づつ更新 * 2012.3.27	○	○	－	－			細則締結なし
農学部 大学院農学研究科	浙江工商大学 食品・生物・環境工程学院及び大学院研究科	中華人民共和国	浙江省杭州市	2002. 9.12	10年間有効 以降同期間づつ更新 * 2012.9.11	○	○	○	○	2002. 9.12	5年間有効 以降同期間づつ更新 * 2007.9.11	
農学部 大学院農学研究科	河南農業大学 林学園芸学院及び大学院研究科	中華人民共和国	河南省鄭州市	2006.9.4	5年間有効 以降同期間づつ更新 * 2011.9.3	○	○	○	○	2006.9.4	5年間有効 以降同期間づつ更新 * 2011.9.3	
農学部 大学院農学研究科	天津農学院	中華人民共和国	天津市	2006. 9.18	5年間有効 以降同期間づつ更新 * 2011.9.18	○	○	○	○	2006.9.18	5年間有効 以降同期間づつ更新 * 2011.9.18	

☆は、解消には、90日前に書面による申し出が必要　*は、解消には、6ヶ月前に書面による申し出が必要　#は、解消には、1年前に書面による申し出が必要
( )書きは協定書、細則いずれかに有効期限の定めのないため、直近の更新の際、両方の更新を検討するものとする。
協定書、細則とも有効期限の定めのないものは、2008年12月4日（取扱い方針通知日より5年）に更新を検討するものとする。